

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070001021		
法人名	社会福祉法人 初栄会		
事業所名	グループホームほがらか		
所在地	福岡県田川郡赤村大字内田2234番地1 (電話) (0947) 62-3707		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 10 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 24 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者一人ひとりの生活スタイルやリズムを大切にし、現存能力を活用した日常生活が送られる様に見守りや付き添いを行っている。また、現存能力を保持出来る様に個々人生活リハビリに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 8 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑豊かな閑静な場所にあり、窓越しに四季を感じる事が出来る、和風の平屋建ての事業所である。1ユニット9人であり、個別対応と自立支援を前提に家庭的な雰囲気である。在宅生活からの生活環境を取り入れ、利用者は不安なく生活をしている。  
入浴は個浴で対応しており、希望があれば毎日入浴する事も可能である。敷地内には特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケアハウスが併設され、2か月に1度の法人会議で情報を共有している。隣施設から看護師が訪問し、利用者の健康管理を行っている。現在、コロナ禍で外部との交流は以前より少なくなっているが、広報誌などで事業所の情報を家族・行政機関に発信している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月開催する職員会議や勉強会で、理念の確認、理念に副った々が実践出来ているか振り返る機会を作っている。	法人理念・事業所理念をそれぞれ掲げている。「地域密着」を踏まえた理念を事業所独自に考えており、職員が出勤時に目に入る玄関に掲示している。理念は職員全体会議でも確認し、管理者・職員は常に地域に向けた考えを持って実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として自治会に加入している。コロナ禍前は地域行事に参加していたが、現在は全て中止となっている。昨年より、地域高校生介護実習の受け入れを始めた。	法人で自治会に加入し、地域の一員として日常的に交流している。敬老会・文化祭などに参加していたが、コロナ禍で現在は地域行事に参加出来ていない。基本的に面会にも制限はなく、近隣の住民も気軽に来訪することが出来る。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や行政、包括支援センター、近隣事業所から認知症への対応についての質問やサービス活用についての相談を受けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、入居者の生活状況や身体拘束廃止に向けた取り組み、施設行事内容を書面審議にて行っている。委員より感染対策の詳細について質問や意見があった為に、報告と実践を行った。	コロナ禍のため、現在は書面で行っている。感染対策・避難訓練・生活状況・身体拘束廃止・外部評価等を議題としている。郵送で意見等を求め、意見があった場合は検討して実践に繋げ、次回の会議開催時に報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各行政窓口とは、介護、医療、年金、生活保護関連、コロナワクチン接種等、電話や窓口にて相談、連携を行っている。	日頃から行政へ運営に対する相談や報告を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、2ヶ月に1度、役場に事業所便りを郵送し、利用者の状況の報告を行っている。コロナ禍のため、現在は主に電話・FAXで連絡を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠や拘束帯、必要以上のベッド柵使用はしていない。言葉や態度による拘束をなくしていく様に運営推進会議や職員会議にて内容を振り返っている。	日中は玄関の施錠をしていない。研修は年間研修計画に基づき、管理者が中心になって研修を行っている。資料を全職員に配布し、身体拘束をしない実践を周知実践している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会で虐待防止を議題とし、学ぶ機会、注意喚起を行っている。毎日、ボディチェック表を記載し、皮膚状態や打撲痕の有無を確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、制度の種類や活用に至る流れ等を資料やパンフレットをもとに学ぶ機会を作っている。家族には入居時や問い合わせ時にパンフレットを提供し説明している。	玄関入口に成年後見制度のパンフレットを設置している。入居時には家族に制度について説明をしている。権利擁護に関する制度の研修を行い、職員が学ぶ機会を設けている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、報酬改定や取得加算変更時には事前に書面での説明を行い同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話受付にて意見聴取している。入居者の現状態や支援内容についても話せる環境を作っている。契約書に第三者相談窓口連絡先を掲載し、説明を行っている。	2ヶ月に1度生活状況や普段の生活の写真を活用して「ほがらか便り」を作成し、家族には郵送で報告している。現在、面会は制限されているが、電話やLINE、手紙で家族から意見を伺い対応している。家族からの意見は必ず管理者に報告し、記録も残されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の職員会議で要望の確認や意見交換が出来る場を作っている。職員体制や施設設備環境、行事等について協議している。	普段の会話やミーティングで職員からの意見が出た場合は、解決方法を検討している。2ヶ月に1度、法人全体の会議を開催し、意見を検討し、運営に反映させている。管理者・介護リーダーは職員からの意見を共有している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームからの意見、要望として、管理職会議に提出している。就労環境や賃金、体制見直し等の改善を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集や採用については、年齢、性別等で可否を問わない。高齢者や認知症介護に対する思いや考えを尊重している。	男女問わず採用を行っている。定年はあるが、希望に応じて再雇用契約が可能である。資格取得も支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会議に人権学習を取り入れ、高齢者の人権だけでなく、障害者や同和問題と技能実習生を来年度から受け入れる為に、外国人差別に対しても学んでいる。	人権研修を行っている。コロナ禍で外部研修に参加はなく、DVD・WEBを使って研修を行っている。職員全体に周知するために、研修記録は何時でも閲覧できるようになっている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と職員はチームによる感染対策、集団指導等の研修を受講している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉施設連絡協議会に加入し、研修会への参加、協力を行っていたが、現在はコロナ禍で中止となっている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や自宅訪問を行い、グループホームでの生活に変わる事での不安や要望を確認し、説明や対応の内容を伝えている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず施設見学、概要説明、支援内容、費用面について説明を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な資源を活用し、希望する生活が継続出切る様に関係職種を交えて意見交換をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現存能力を活かして、自室掃除やベッド周辺の片付け、食事の準備、片付けを職員と一緒にやっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活必要品の購入や受診時付き添い、外出支援等、家族の協力を得ている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居していたケハスの入居者との交流が続けられている。受診や外出の際に今まで住んでいた地域周辺をドライブする事もある。	職員は、利用者の馴染みの人や場所について、家族から聞き取り、把握している。利用者が地域住民との関係を継続できるように行事に参加する等して働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の片付けやテーブル拭きは利用者同士で行っている。職員は関係構築の為にコミュニケーション時の橋渡し役として対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族から病院の選定や介護保険の相談を受けている。家族と顔を合わせた際は、近況を確認したりしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面談により本人、家族から生活に対する意向や要望を確認している。趣味や生活歴を活かした支援内容を検討する様にしている。	入居時に利用者、家族からの情報提供をもとにアセスメントを実施し、ホームでの暮らしの希望や思い等の意向を把握し、介護計画に反映している。また、日々の暮らしの中での習慣や会話、表情等を参考に、職員間で検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、在宅生活時のケアマネジャー等に確認し、生活スタイルやリズムを把握する。グループホームでの生活に反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや日々の申し送りの場で入居者の現状、生活状況について把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見聴取、受診結果やかかりつけ医からの意見を参考にし、職員全員でカンファレンスを開催し、立案している。	介護計画は本人や家族、関係者の意見を反映しながら、本人本位の計画を作成している。モニタリング、見直しは定期的を実施されている。作成された介護計画は、利用者家族に報告されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況記録、受診や検査結果、モニタリング記録をもとにカンファレンスを実施、計画継続や見直しの確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険制度に限らず、活用可能な資源を確認し、ニーズの充足に向けて連絡、調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医や訪問理美容の継続利用と、資源を活用しながら生活を送ってもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も今まで通院していた医療機関への受診を行っている。	本人及び家族が希望するかかりつけ医への受診及び他科受診等への支援が実施されている。受診後はその都度家族へ報告されている。また、隣接する同法人の看護師による定期的な健康観察及び健康チェックのほか、急変時の対応等の医療連携が行われている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼、終礼の引き継ぎ時は、併設施設と合同で行い、併設施設看護師と入居者の状態を共有している。昼夜問わず相談が出来る体制をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した場合は、必要品や洗濯物の入れ替え支援を行うと共に状態を確認し、早期に退院が出来る様に話をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応については入居時や全身状態低下時、長期入院治療が必要になった際に、家族、医療機関と協議している。	ホーム独自の「重度化対応指針」が明文化されている。利用者、家族へは入居時に当該指針について説明し、同意を得ている。利用者の心身状況に応じて、ホーム関係者と利用者、家族で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて急変時や事故発生時の対応について学んでいる。地区消防署から協力依頼あった患者情報シートを活用している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コト禍もあり、火災(夜間想定)、土砂災害を想定した自主訓練を年2回実施している。運営推進会議を通じて連絡、報告を行っている。	非常災害訓練は地元消防の協力のもと、定期的に実施されている。隣設のケアハウスや地域の消防団との連携がとれており、夜間想定避難訓練も実施されている。また、災害時の非常食、飲料水、備品等が準備され、緊急避難時に持ち出しできるように重要な利用者情報シートがまとめられている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時はプライバシー保護を徹底し、個別に対応している。また、家族以外から入居者情報に関する問い合わせがあった場合は、管理者のみが対応する様になっている。	プライバシー保護に関しては、日々の言葉かけ、誘導、入浴、排泄、プライバシー等に配慮をした支援を行っている。個人情報保護については、規定に則りホーム独自のルールを設け、徹底が図られている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、会食の内容は入居者と職員で検討し決定している。入浴可否、食事形態変更等は入居者の意向を確認しながら対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活時間の流れはあるが、入居者それぞれの生活時間、その日の気分や体調に応じて柔軟に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類の購入や着用、外出時のコーディネートは入居者に決めてもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、おやつ、会食時の下準備、配膳、片付けは入居者と職員が一緒に行っている。献立によっても嗜好や食事形態を柔軟に対応している。	旬の食材をメインとし、食事形態や減塩食等にも配慮している。隣設施設の栄養士により献立が作成され、栄養バランスも図られている。行事食や特別メニュー等の支援も行われている。適切なソーシャルディスタンスを確保のうえ、利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設栄養士管理のもと、栄養価を計算した献立にて食事を提供している。食事摂取量や水分摂取量は日々記録をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄を行っている。希望があれば訪問歯科診療が受けられる。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の希望、有する能力に応じて出来る限り、トイレ、ポータブルトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表に基づき、一人ひとりの排泄傾向を把握し、早めの誘導を行っている。また、隣接施設とも連携し、利用者の有する能力に応じて、オムツの使用を見直し、夜間帯のポータブルトイレを活用するなど、自立に向けた排泄支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、食物繊維の多い食事内容やおやつを提供を行うと共にホーム内での歩行訓練を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日や時間を設定せず、希望があれば入浴、シャワー浴対応が可能である。	入浴は週4回を基本としているが、利用者の状況により、常時入浴が可能な対応がとられている。着替えスペースは温風ヒーター等で温められ、ヒートショック対策がとられている。入浴後の保湿剤の塗布も行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調やリズムにて、夜間睡眠、昼寝、休息時間をとってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬や服薬時には、職員2名で確認している。薬剤情報については職員間で共有し、副作用についても確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物たため、園庭の草取り等、それぞれの役割が持ち続けられる様に職員と一緒にしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天気が良い時は園庭の散歩をしたり、受診の帰りに買い物に寄ったりしている。	コロナ禍のため、ドライブや買い物等は実施されていない。ホームと隣接のケアハウスを囲む庭園の散策を日課としている。リビングでのアクティビティやゲーム等の充実を図っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時は小遣い程度の金銭を用意し、自由に好きな物が購入出来る様になっている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来る様にしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花、共用スペースには季節の飾りを行い、職員は室温、湿度、臭気にも注意している。	ホーム内は、木目調の柔らかな雰囲気である。共用スペースは季節の花や行事の写真等が飾られ、生活感や季節感が感じられ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。また、感染予防対策の徹底が図られている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や座る場所は入居者の関係性に考慮して配置している。ソファを設置し、一人で過ごせる空間もある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活時に使用していた物や寝具、仏具等は持ち込んでもらい、設置場所等は自分自身で決めてもらっている。	居室は余裕のあるスペースで安全に留意されている。利用者の馴染みの物が配置され、くつろいで過ごせるよう配慮されている。利用者一人ひとりの個性を生かした部屋づくりとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現存能力の活用や把握に努め、自立、見守りにて出来る事は入居者に決定、実施してもらっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		